

最近の症例から (14) ——接触性口唇炎——

岡本茂雄, 井口光世

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者: 58歳 男性.

初診: 平成4年5月19日

主訴: 下口唇の疼痛および痂皮形成.

家族歴: 特記すべき事項なし.

既往歴: 20年前に胃潰瘍にて手術を受ける以外は特記事項なし. また, 過去に食品や薬剤によるアレルギーは認められない.

現病歴: 平成4年4月上旬より下口唇の乾燥感を認めたため, 市販のリップクリーム (MENTHOLATUM®) を使用した. その後, 乾燥感は軽減したがリップクリーム使用3日後より下口唇粘膜に小水泡の形成を認め, 次第に癒合しびらんを形成した. さらに5月上旬より痂皮形成を認め, 某歯科医院にてプロピオン酸デキサメタゾン軟膏 (メサデルムクリーム®) の投薬受けるが, 症状の軽減を認めず当科を紹介され受診した.

現症

全身所見: 特記すべき事項なし.

局所所見: 下口唇粘膜の軽度腫脹と一部にびらんを伴う痂皮の形成 (写真1) を認めた. 両側の顎

下リンパ節はそれぞれ小豆大のものを1個触知し, 可動性で軽度の圧痛を認めた.

臨床検査所見: 初診時の臨床検査成績を示す (表1). 血液一般検査では, 血沈の亢進を認めたが, その他には異常値を認めなかった. 血液化学検査

表1: 初診時臨床検査成績

(血液一般)	
白血球数	$48 \times 10^2 / \mu 1$
赤血球数	$398 \times 10^4 / \mu 1$
血色素量	33.7 g/dl
ヘマトクリット値	41.5%
血小板数	$15.5 \times 10^4 / \mu 1$
血沈値	13 mm/hr
白血球百分率	
Stab.	8%
Seg.	36%
Eosino.	5%
Baso.	1%
Mono.	12%
Lympho.	38%
(血液血清)	
CRP	0.26 mg/dl
(血液化学)	
TP	8.2 g/dl
T-Bil	0.6 mg/dl
TTT	11.3 U
ZTT	21.2 U
GOT	139 U/l
GPT	85 U/l
LDH	380 U/l
ALP	80 U/l
γ -GTP	139 U/l
T-Cho	174 mg/dl
Glucose	86 mg/dl
Creatinine	0.8 mg/dl
BUN	20 mg/dl



写真1

(1993年1月22日受理)

では GOT, GPT, γ -GTP, TTT, ZTT 各値の上昇を認め肝機能異常が疑われた。

臨床診断：接触性口唇炎

処置および経過：リップクリームの使用中止を指示するとともに、セフェム系抗生物質とテトラサイクリン系軟膏（アクロマイシン軟膏®）を投与し

た。また、前腕部においてリップクリームとプロピオン酸デキサメタゾンのパッチテストを施行した結果、24時間および48時間後ともに陰性で刺激性因子の同定には至らなかった。初診7日後には下口唇の痂皮は落屑、乾燥し、軽度の掻痒感を認めるものの軽快、治癒した。